

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>ホーム全体として「和」をモットーに理念を掲げている。一つ屋根の下で生活していく中で互いに助け合いながら暮らしていけるための理念として開所当時より1思いやり2まごころ3明るい笑顔を理念としている。</p>	<p>地域の中で暮らし続けていける支援(理念)を今後検討しながら、地域や利用者様のニーズによって作り変えていくことも取り組んでいきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念の共有はできている。毎朝のミーティング後には職員一同して大きな声で復唱し、一日の始まりの心構えを持ち取り組んでいる。</p>	<p>具体的な理念であり、職員一同して利用者様に関わる際、意識して取り組んでいきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族・自治会等に発行しているホームたよりにて理念・日々の取り組んでいる様子などお伝えして理解を得られるようにすすめている。</p>	<p>自治会の方よりホームたより「和」を見ましたよなど話してください、少しずつではあるが地域の方々にもグループホームとの存在が解ってもらっているようであるが、なお一層理解をいただけるように取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>立地的に隣近所と離れている為、日常的ではないが、複合施設に立ち寄られる方は多くグループホームにも寄ってもらっている。地域の集まりに出向きグループホームのPRに努めたりしている。</p>	<p>これからも働きかけをして気軽に寄っていかれるように呼びかけていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>旧小学校を改築した複合施設であり、地域の人々も心のよりどころとされている。ボランティアの受け入れも多い。月1~2回の踊りの会・琴の会の皆さんとの交流があり、利用者様も楽しみにされている。保育園の年長児との交流会はスキップもとれ大変喜ばれた。</p>	<p>地域の一員として定期的な交流をしていく機会を持っていきたい。来ていただくだけでなく、こちらからも参加する交流がもてるように努めていきたい。地域で必要とされる活動や役割を担う様に努めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ショートステイ・デイサービスのご利用者様等来所された人に積極的に話しかけをしてなじみの関係づくりをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を全職員が理解し、前向きな考えをもちながら質の向上にに取り組んでいる。評価を活かして改善できることから取り組み、居室の入り口ドアに暖簾をかけ覗いて見られないようにプライバシーの保護の改善ができた。		評価の改善点でもあるショートステイとの入り口ドアの改善には、市役所にもお願いを図りながら改善できるように努めていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回に開催している運営推進会議では、貴重な意見をいただき運営に活かすよう努力している。自己評価・外部評価の説明や公表をして取り組みや改善についての意見など聞かせていただき、質の向上にもつながっている。		委員で他施設見学を実施したので、運営方法等改善する取り組みが出来るように話し合っていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	課題解決に向けて話し合いを持ちながら、協働関係を継続している。今年は特に中越沖地震があり、かけつけていただいた。その時損害した修繕等の確認・現在修理工事中にいたるまで協力をいただいている。避難訓練にも参加していただき、実態等を理解していただいている。		これからも積極的に関係作りをしていながら協議する機会を続けていき、直面している運営・サービスの課題解決に向けて取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修などにおいて理解を深めている。このような制度の対応が必要な時には支援していきたい。地域包括センターとの連携もとれる状態にあり協力いただけたと思う。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声掛けひとつでも虐待につながる場合もある事、ちょっとした青あざ等にヒヤリハット記入をして職員同士の連携で見過ごされる事がないように努めている。		高齢者は弱者であること、職員はいつも謙虚な心で接していかなければならない事を肝に銘じて支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分理解をしていただけるよう説明時には丁寧に説明するよう心掛けている。</p>	<p>不安・疑問点などには十分な理解をいただけるように配慮している。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム以外のやすらぎ荘職員なども利用者様と親しく話せる機会があり、不満など情報源として受け入れ運営が改善できるようにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族との信頼関係が持てる努力をしている。運営推進鍵会議の報告・ホーム便りの発行など定期的にな報告と個々の状況に合わせた報告、連絡等をしている。ご家族との連携がすみやかにでき医療受診など早めの対応をして下さり連携が取れている。</p>	<p>利用者様の状態など個別の報告を徹底しながらより良い関係が築いていかれる様になお一層努力をしていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱の設置をしており、運営にいかしている。ご家族の来所時・行事等で管理者・職員は話しかけをして理解を頂くとともに複合施設でもあるために相談を受ける機会もある。サービスに反映できる姿勢で取り組んでいる。</p>	<p>何気なく話せていただけるように職員は配慮していると同時にこれからもそうしていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の定例会・朝のミーティング等職員の意見交換、提案の機会もあり、良いと思われる事については反映している。</p>	<p>管理者は職員の意見を聞ける態度でいたいと思っている。改善できる事は取り組んでいる。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整が必要なときもあり、柔軟な対応をしている。利用者様の急変時の対応・行事等で必要な職員の確保が必要な場合に努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動では最小限に努め馴染みの関係が保たれるように配慮している。職員交代による利用者様への影響が少ないように新しい職員への引継ぎに配慮している。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>マニュアルが職員の共通の認識が持てるようになってきている。机上にあり、いつでも閲覧できる状態にある。個別見直し等についても必要に応じて見直しをしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員が段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>研修委員を決め研修会を設けて人材の育成に努めている。認知症専門の講師の研修会など年間計画で実施した。介護福祉士の主催研修には、事例発表をしたり専門的な勉強を学んできた。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>やすらぎ荘全体での職員交流はとられている。各セクションの応援等通じそれぞれ得る事ができている。また他施設研修時や他施設見学をして交流を深めている。</p>	<p>他施設見学での同業者と相互訪問が持たれ今後のサービスの向上につながるよう取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>数回慰労会をして、職員同士の業務以外で楽しむ会を実施した。休憩はその職場を離れることで心身の休みを持たれるようにしている。</p>	<p>運営者・管理者は、職員の相談が受けられる人格でいなければならないと常日頃努力している。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>やすらぎ荘全体の連絡調整会議を月1回開催している。職員に対してねぎらいの言葉や努力をたたえ、向上心を持ってもらえる様努めている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前にはご家族はもちろん担当ケアマネなどから情報提供して頂きながら馴染んで頂けるように職員同士配慮しながら本人の不安画ないように努めている。温かな気持ちの受け入れ姿勢で対応している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前にホーム内の見学に来ていただき困っている事など相談にのったり良く聞かせていただくこととこちらからはホームの生活等を理解していただける様に対応して信頼を得るよう努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族にとって最善のサービスを考えて対応している。		今以上にご家族や本人の話を聞き必要としているサービスを見極めていく。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所まえにはご家族との調整をしながら利用者様が納得いただけるような対応をしている。隣のショートステイからの入所からホームに入所となった。不安な状態になる事がないよう柔軟な対応をした。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	活動・食事・お茶のみ等生活を一緒にする事により楽しく会話をしてお互い良い関係を築いている。人生の先輩として職員も勉強になることがあり、一方方向ではない関係作りができています。		今以上に本人と関わる時間を増やし支えあう関係を強いものにしていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を大切にして色々なイベントには積極的に参加してもらっている。一緒に参加して楽しめる機会を持ちながら関係作りを築いている。		遠方のご家族にもなるべくホームに来てもらい本人と積極的に接してもらえるように働きかけていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	イベントがある時にはご家族にも声をかけ参加してもらい一緒に楽しむ事でお互い良い関係が築けていけるようにしている。		今後もご家族と本人が楽しく参加できるイベントを考え実行していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元婦人会の仲間の会の参加、近所の方の来訪、外出等で馴染みが途切れないように積極的に参加を呼びかけている。		本人の意向を聞き行ってみたい馴染みの場所など積極的に出掛けるよう支援していきます。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の関係を考え、必要ならばテーブルの座席替えも行い日々ご利用者様同士楽しく生活できるよう配慮している。		ご利用者様同士が協力し合ってできる作品作りなどを積極的に取り入れていきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域で元ご利用者ご家族様に会う機会は声を掛けさせていたたりしている。地域の一員として関係を大切にしていこうと対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞くことが困難になりつつあるが、本人の表情や態度を察して意向の把握に努めている。本人はどうかを考えていながら利用者様本位を視点として取組んでいる。		何気ない会話の中で訴えている時はキャッチし、少しでも本人の意向の把握に努めていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から生活歴など聞き取りし把握に努めている。ちょっとした会話の中で知りえることもある。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式書式作成をして、職員全員で本人の総合的把握のため意見交換をして、情報の共有をしている。		ご家族からも情報を聞きながら総合的な把握ができるように取り組んでいく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関係各位と話し合い計画作成をしている。介護する側の課題に偏らないよう利用者本位の介護計画を作成している。本人の意向やアイデアを反映できるように取組んでいる。		本人やご家族の意見を積極的に取り入れて計画作成を行っていく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急な状態の変化があった場合はその度関係者等の意見を聞き見直しを行っている。ケア関係者の情報や気づき・アイデアを現状に即して計画の見直しをしている。安定しているような利用者様にも定期的に見直しをして、確認しあっている。		なるべく本人意見を取り入れて現状に即すようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの内容を記録して実践等に反映している。変化のあった日々の様子は特に情報の共有につながっている。		引き続きケア計画等とつながる記録を心がけてよい良いケアサービスに努めていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算はないが健康管理・受診の支援・早期退院の支援などショートステイ・デイサービス看護師の協力をもらいながら対応可能である。特別な外出支援として計画して実施している。重度化された場合の対応・終末期の対応など出来る限りの支援をしている。		利用者様ご家族様の状況が変化していく中で柔軟な対応が出来るようにこれからも取り組んでいきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の避難訓練には、地域の架けつけ隊・東頸消防署・行政・防災業者等の協力をいただいて実施している。地震災害時には、安全で安心な生活ができるように支援をいただいた。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行政の支援サービス(オムツ券・訪問美容・利用者助成金・布団乾燥など)は利用している。馴染みの理容店から散髪にきていただいている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	月1回の職員の定例会に参加をいただき、相談・助言を頂き連携をとらせていただいている。		運営推進会議委員もお願いしている為、運営に協力いただいている。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な往診または急な病状変化の際にもすぐに往診が可能であり、適切な医療を受けていただいている。かかりつけ医との関係を築きながら往診時には介護相談等にも応じていただいたり、ご家族様への情報の提供等のやりとりがなされている。		今後も利用者様・ご家族様にも受診結果等が共有できるように努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	病状変化がある利用者様の受診にご家族と共に職員も一緒に専門医に出向き相談・アドバイスをいただいた。生活の様子を記載して薬の処方に役立てていただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	複合施設内のショートステイ・デイサービス看護職員と連携して、容態変化のあった場合はすぐに相談・見てもらっている。適切な指示で職員も助かる場面が多い。		利用者様の状態が悪くなつてこられると一層看護師の配置の必要性が考えられるため、検討が必要である。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院をされた利用者様があった時は病院関係者との連絡や情報交換等はしてきた。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の希望とご家族の対応を聞きながら進めている。かかりつけ医との話し合いも持ちながら最善の対応をしていきたいと職員も方針を共有している。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いをもっている。		終末期で看取りが必要時にはご家族から付き添いをしていただいた。ご家族から協力していただける体制作りを進めていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	早めの対応が必要であり、かかりつけ医・ご家族との連携を執りながら対応をした。褥瘡予防マット・吸入器等のリース手配をして変化に備えた。夜勤帯は職員ひとり対応であり、気を配りながらの対応でありチームが連携を十分に図りながら、緊急時の対応など万全に備えていくように取り組んでいる。		かかりつけ医・ご家族等の協力が不可欠であり、早めの検討・計画をした体制作りをしていきたい。検討課題としてまとめていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所基準判定委員会がある。ホームでの生活にそぐわない利用者様は最近の事例がないが、十分な対応を心がけダメージを防ぐように話し合いを持つ計画している。		そのような場合には、十分な対応をして取り組んでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人権・プライバシー等を尊重する心構えではいるが、忙しさのあまり声掛けに配慮が不足している時がある。個人情報保護法の理解に努め秘密保持の徹底が図られている。</p>	<p>利用者様の誇り・プライドを傷つけない対応を心がけ、遠くから大きな声での声掛けではなく、なるべく利用者様のそばに行き、適切な声掛けができるようにする。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>何度も同じ話の繰り返しになってもゆっくり話し、納得されるよう努力している。受け入れる対応を心がけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>全体を見回して声掛けすることになりがちで1人ひとりのペースに合わせられない時も多いがなるべく時間を作って個人と向き合うように取り組み、本人が望む過ごしかたに努めている。</p>	<p>家の中ばかりで過ごしているとストレスもたまる為、お天気の良い日など散歩の希望等対応できるように努めている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容は訪問理容の利用が多いが、可能な方は家族の対応にて外出時に望む理容店に行かされている。着がえなどは本人と話し合いながら選んでいただいている。</p>	<p>季節に合った衣類を着て頂く為に早めの衣替え等をしてタンスの整理を支援している。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者様の心身の状況に応じ可能な限り、野菜の皮むきや野菜の刻みなど出来ることを発揮できる支援をしている。利用者様の好みの味付けなど聞き出しながらメニューの変更などして希望に添っている。食事を楽しく食べる機会として外出時に外食もした。</p>	<p>利用者様が前向きな意思や気持ちを引き出すような場面作りの工夫をしていく。ぼたもちづくりは皆さんでご飯の握る人、あんこを付ける人と協力しあっておいしく出来上がった。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>タバコの喫煙は、ホームでは禁止となっている。現在喫煙者はいない。おやつ・飲み物については希望を聞きながら摂っていただけるよう支援している。</p>	<p>暮れの年取りなどお酒の飲みたい希望者があれば対応したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、誘導が必要な方への声掛け・誘導・介助を行っている。		日中は布パンツ使用で夜間のみ紙パンツ使用にして安心して休んで頂ける様にその方にあった対応をしている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	併設施設の浴室を借りており、時間が限られている。利用者様が満足いただける入浴になるよう努力している。車椅子対応利用者様には特浴(機械浴)対応で安全で安心な対応が出来る。入浴に抵抗のある利用者様は気分が落ち着かれるように配慮しながら対応をしている。		季節感が感じられる湯室づくりに努めている。(もみじ風呂・菖蒲湯・みかん風呂)
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室の担当者が随時居室を見回り安心して休息出来る様に対応している。(季節に応じて寝具の調節・室温・換気・ポータブルトイレの設置等)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえの手伝いや洗濯物のたたみなど出来るところはしていただいている。お茶の時間など昔歌ったうたを歌って場の盛り上げ役をして下さる利用者様などその場面場面で発揮していただいている。		日常行っている調理・たたみものなどはいきいきとした表情でされるので話を交えながら行うように進めていきたい。なかなか言葉が出ない利用者様も歌は声を出していただけるので、機会をもっていけるように支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会が少なく本人で金銭管理ができている方は限られている為、職員が管理させていただいている。利用者様はご家族様から必要な物は買ってもらうからお金は使いたくないと話す方もいる為預かっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	春から夏の頃はプランターに花植えをしてその水暮れ当番などで外に出る機会があった。短時間日光浴程度外にでてみたり、外出計画実施をして気分転換をはかっている。		外ばかりでなくても複合施設内の他事業所を見て回ったりしながら一人ひとりと会話を楽しむ時間を持つ機会をつくり取り組んでいる。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様からの誘いで外出される方もおられるができない利用者様、外出が困難になってきている車椅子使用の方も天候をみて外に出られるように支援している。		行事としてドライブ等にでかけることができ、利用者様からも喜ばれた。(大池小池・ぶどう狩り・板山不動尊等)五月光旅回り一座の観劇に行きご家族様と共に外食もした。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が送られてきたり、ご家族様と話したい時など、電話をかけていただいて大切な人との関係づくりに取り組んでいる。手紙はいただけるだけでやり取りにまではいたっていない。		少しでも返事が出されるような支援計画をすすめていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	それぞれに面会者(ご家族様・親類・近所・知り合い等)が見え居室や談話室でくつろいでいただけるように工夫している。(椅子・湯茶等の接待)職員は明るく挨拶する事を心がけている。		
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対しての正しい知識を修得して拘束のないケアを実践している。		点滴など、どうしても必要時には本人および家族に了解をいただいている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	戸1枚でショートステイの談話室になり、利用者様の中には戸を開けて覗かれたりされる為、苦情がきた。鍵をかけずに対応してきたがそれからはまた鍵をかけてしまう状態がおおくなっている。		行政に訴えをして構造の修繕工事をお願いしている。鍵をかけない時間帯を増やし、安全と自由な暮らしを支える様にしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個人のプライバシーに配慮しながら見守りをしている。夜間定期的に各居室の見回りをして安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の状態に応じた危険防止策に取り組んでいる。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒危険が予測される利用者様にはベッド足元に徘徊マットをひいてコール対応ですぐ駆けつけられるように防止に取り組んでいる。服薬事故防止には、袋に名前を記載して間違えがないように用意する人・服薬介助する人は別人で対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が救命救急法、AEDの講習を受講して応急手当を行う事が出来る。		初期対応の訓練は定期的に行っていないが、いつ起こっても十分な対応ができるように定期的に行っていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の方の協力の下で避難訓練をしている。地域かけつけ隊の組織があり、災害時にはすぐに駆けつけてくださった。協力体制は取れている。防災頭巾を用意したり、飲用水等の準備がされている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	出来る限りの対応をしても転倒されたりしてしまう事などご家族に連絡を入れて状態の変化を伝えている。職員は、アンテナを張り、注意を要する利用者様が席を立たれたりされるとすぐにそばに行けるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常生活の中で状況変化に注意し早期発見に万全を期し、変化・サインを記録に残し対応している。かかりつけ医に連絡等が必要な場合は速やかに連絡をいれ指示をいただいている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルに効能・副作用等の記入をして服薬ケースの蓋の上にも一人ひとりの用量を記載し、医師の指示どおり服薬支援をしている。症状の変化には観察をしっかりと行い主治医に連絡をして対応をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	服薬の調整を行い個人ごとに対応している。便秘気味の利用者様には、水分の摂取にも声掛けしてすすめている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	外出などから帰所した際・10時・15時にうがいの支援をしている。食事の後なども一人ひとりに応じた対応をしている。就寝前には、歯磨き・義歯の洗浄を進めて清潔保持の支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事はバランスよく献立がたててあるが、水分の摂取が不足がちであり、湯上り時・10時・3時にはお茶のみが出来るように支援をしている。食事の摂取時間にもばらつきがあり、一人ひとりの状態で配慮している。本人の食生活を様々な面から支援をして、個別で介助必要な方には、介助したり、自助具の使用支援をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防に努めるとともにマニュアルの整備を進めて対応している。今秋も利用者様・職員はインフルエンザの予防接種済みであり、このこともご家族には了解を得ている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前にまな板・包丁の熱湯消毒の実施、夕食後台所用品の消毒を実施している。店より前日又は当日に使う食材を配達してもらっている。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム入り口は複合施設のショートステイの談話室を通りぬけて入るところであり、入り口にTVがあったり非常に玄関としてはありえない状況にある。改善箇所として市に訴えを掛けている状態である。ショートステイとの連携を持ちながら進めている。現状で出来るだけの玄関周りの工夫をして対応している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ハード面では談話室の窓も壁際だったり景色が見えにくい。少しでも季節の鉢植えや花をかざってやすらぎをもっていたるように配慮している。椅子等に本人の座布団を引いていただき、居場所の確保にも努めている。冬場はコタツをだして暖をとっていただけている。		千の風になつての流行曲など聞きたい歌など希望に添えるように対応できたので良かった。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVの前に長いすを置いたり、畳をひき夏場はテーブル冬場はコタツにして足をのばせる場所づくりをしている。廊下にも一息つける椅子を用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に備えてあるダンス・ロッカー・ベッド等があり、それを利用されている。その他の物としてご家族等から協力いただき、テーブル・椅子・藤家具・カラーボックス等一人ひとり好みのもが置かれている。懐かしい写真を飾られている利用者様もいる。寝具は家から持ってこられたものを使用されている。		本人・ご家族と共にこれからも居心地が良い環境づくりに取り組んでいきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者様の状況に応じて換気・室温調整等職員は配慮している。冬場はエアコン使用で湿度調整の為とインフルエンザ予防で加湿器の対応をしている。		
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに手すりの設置をした。つかまる場所がなく危険であったため、設置をして転倒予防と安心して生活できる支援につながった。車椅子で自走が出来るように本人と相談しながら居室の様様替えなどもしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人に応じて出来そうな事は初めからまかせてしまうのではなく一緒に始めるように持っている。一対一の対応の方が良いかどうかなど工夫をかさねて支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節によってはベランダにプランターを置き、花を咲かせたり野菜を育てたりしている。利用者様からも水やりや収穫もしていただき喜ばれている。晴れた日には、施設の外周の散歩にでて日光浴をして気分転換を図っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)